

今回はペット、とりわけ犬と住む家というテーマでお話したいと思う。

近年、ペットブームといわれ、中でも犬を飼っている、或いは飼いたいと思っている人は、たいへん増えていると聞く。事実、私のところにも「犬と住みたいので、人にとっても犬にとっても暮らしやすい家を設計していただけますか？」という依頼があったりする。

かくいう私も、犬と暮らしている人間の一人だ。では、人も犬も居心地の良い家とは、どんな家なのであろう。一言でいうと人にとって居心地の良い家は犬にとっても居心地がよいというのが基本だと思う。

つまり、人も犬も生き物である以上、命を守れる家、健康に暮らせる家であることが、根本的に共通の要素であるからだ。

具体的な例をあげると、我が家の場合、家を建てようと思った時、子供は幼児であり、そして、犬にいたっては生後3ヶ月という状態だった。それ故、自然素材にこだわった家とした。たとえば、床は無垢の木のフローリングで、無塗装のままとし、壁や天井は、湿度調整をし、有害物質を吸着する機能を持つ珪藻土を用いた。また塗料も、舐めても大丈夫な塗料のみとした。

プラン的には、光と風がふんだんに入ることの基本とし、自然の力を享受しやすいつく

りとした。また2階のリビングのすぐ外に6帖大のテラスを作り、内外一体化した空間となるようにした。そのテラスは家族にとっては、ティータイムなどを楽しむ場であり、犬にとっては日光浴や造り付けのベンチでのお昼寝の場となり、人、犬ともに、最もお気に入りの場となっている。もちろん、テラスには水道がひきこんであり、床もコンクリートとしているので、万が一、犬が汚しても洗い流せるようにしている。



リビングダイニングと一体化したテラス

る。また、犬を飼っていることで気になることのひとつに、鳴き声の問題がある。窓を防音効果の高いもの(スウェーデン製の3重ガラスサッシ)をすることで対処した。

また、私が手がけた別の例では、家の中で犬が滑らないよう床をコルクにした家もある。この家も同様にリビングから続くテラスや足を洗うことのできるシンクを設けた。

今回はペットの中でもとりわけ犬と住むということに絞ってお話したが、飼いはじめればペットも大切な家族である。少し工夫を加えることで、ペットとの生活もぐっと楽しくなる。そして、共に居心地よく暮らせることが人にとっても動物にとっても幸いなことだと思う。



テラスのベンチはお気に入りの場所

写真一杯の犬の雑誌「CoCo」(日本出版社・¥880)が創刊されました。Vol. 2(2月16日発売)に犬三都物語(p98~p99)として、石川さんのお宅が紹介されています。犬、大好きの方、ご一読を!

